

令和5年度第2回青梅市スポーツ振興審議会議事録

日 時

令和5年9月5日（火） 午前10時00分～正午

会 場

青梅市役所3階教育委員会会議室

出席者

（委 員）

森田会長、杉山副会長、渡辺委員、武藤委員、市川委員、
小花委員

（事務局）

橋本教育長、森田部長、吉崎課長、野島係長、林主任

欠席 神野委員、神尾委員、山本委員

傍聴者 なし

進行：吉崎課長

傍聴および議事録について吉崎課長説明

吉崎課長が会議の成立を宣言し開会

1 あいさつ

- ・森田会長
- ・橋本教育長

2 諮問について

- ・橋本教育長から森田会長へ諮問書を読み上げ渡す。
- ・諮問書1・・・青梅市スポーツ振興基金条例に基づく整備および協定について
- ・諮問書2・・・第2次スポーツ推進計画について

※公務のため橋本教育長退席

3 報告事項

- (1) 第55回東京都市町村総合体育大会結果について（資料1）

事務局より一括して説明

事務局：令和5年7月8日の土曜日から8月5日の土曜日で開催され終了した。14競技22種目行われ、青梅市については、男子が5位女子が4位総合では第6位という結果であった。

- (2) 市営プールの開場結果について（資料2）

事務局：今年の入場者数64,637人と昨年の入場者数の合計24,985人であり、158%増となった。

- (3) スポーツDAY青梅2023について（資料3）

事務局：スポーツレクリエーションフェスティバルをリニューアルしたスポーツDAY青梅の開催を10月9日に予定している。

- (4) オクトーバー・ラン&ウォーク2023について（資料4）

事務局：令和2年から参加しており、今年で4回目の実施となる。スマートフォン専用アプリを使用したウォーキングとランニングのイベントを実施する。

- (5) 第85回奥多摩溪谷駅伝競走大会の開催について（資料5）

事務局：令和5年12月3日（日）に開催を予定している。参加チームを前回より50チーム増やしての開催となる。

- (6) 第56回青梅マラソン大会の実施について（資料6）

事務局：第56回大会の開催を2月18日に決定した。前回より定員を30キロの部は12,500人とし、2,500人、10キロの部は3,000人から3,500人と500人増とした。参加費は、30キロの部のみ1,000円の値下げとした。

質疑応答

委員：東原プールの時間を1時間長くしたことで人数がどれくらい増えたか。

事務局：推測になるが午後5時過ぎとなると利用者は少なくなってくると思われる。

委員：都民大会等で報奨金のようなものがあれば、もっと励みにな

るのではないか。検討いただきたい。

事務局：基準を見直す必要があると認識している。今後検討し、審議会で協議していただければと考えている。

委員：スポーツデイ青梅のチラシも綺麗になった。

事務局：チラシを色々な人の目についていただきたいと考え、プロのデザイナーに依頼した。

委員：マラソンの一般エントリー開始日は9月15日からでいいか。

事務局：9月15日からであり、ジュニアロードレースが10月31日まで。ふるさと納税のは9月29日までと設定している。

4 諮問事項

(1) 青梅市スポーツ振興基金条例にもとづく表彰について（別紙1、2）

事務局：7月31日現在までの申請を諮問させていただく。

大会出場報償費事業：1件

普及推進事業：1件

青梅市スポーツ賞：個人 16人、団体 7団体（55人）

事務局：補足説明

表彰について、例年、前年の9月1日から当該年度の8月31日までを表彰の対象期間としているが、今年は教育委員会に移管した関係もあり、令和4年9月1日から令和5年7月31日までを表彰期間としたが、8月についても、表彰期間に加え、今年のスポートの日に可能な限り間に合うようにしたいと考えている。

来週以降、各委員にメールにて書面での諮問をさせていただき、答申をいただきたい。

援助に関する諮問についてすべて承認

表彰に関する諮問について

委員：全国大会等で活躍された方々が成長されると名前が出てこな

い。追跡調査等はできないのか。

事務局：表彰者名の下に括弧書きで推薦団体を書いているが、追跡調査しても推薦団体の方でどこまで把握できるか。

スポーツ推進計画の方を考えの一つとしてスポーツの情報総合サイトのようなものを立ち上げ、追跡できるコーナーもいいかと考えている。

委員：より多くのアスリートが出るように皆さんに考えていただきたい。

表彰対象者個人についてすべて承認

委員：出場選手が重複している団体が2つある。良い方の成績で表彰するとなっている。そのため2件については上位の成績をもって承認する。

表彰対象者団体についてすべて承認とするが、重複している出場者については上位の成績をもって承認

委員：以前の表彰は学校の推薦だった。最近、少なくなっている。団体として活動するのであれば、スポーツ協会に登録してもらいたい。

委員：子どもは青梅の宝なので、学校への周知をやっていただきたい。

事務局：教育委員会に入ったこともあり、学校には、より周知し、推薦を依頼していく。

(2) 第2期青梅市スポーツ推進計画について（資料7）

事務局：令和6年度から15年度までの第2期スポーツ推進計画を策定している。第2期青梅市スポーツ推進計画検討委員会を設置し7月28日に第1回検討委員会を開催し、計画素案の方を作成している。

最終案については年内の策定を予定している。

資料をもとに説明

事前にいただいた意見の紹介

委員：目標に向けた具体的な策を考えなければいけないと思う。イベント等の情報発信をできるようにするといいい。

事務局：情報発信サイトをつくり、市民に提供できればと考えている。

委員：大会で違う種目のエキシビジョン等はできないか。見るスポーツとしてうまく連携できないか。支えるスポーツといった意味でも体育大学等との連携もするといいいのではないか。

地域交流センターというものがあり、ボランティア活動で学生たちを派遣している。

事務局：トップスポーツやエキシビジョン等で、いきつけづくりになればいい。連携を持ちながら、情報提供や、ボランティアなど進めていけば支えるスポーツとしてスポーツ実施率が上がっていくと考えられる。

委員：「交流」はあまり使わないのか。スポーツを通じてコミュニケーションとしての場の問題ではないか。

委員：近年部活動もしていない。学校や市民センターの体育館を使って語り合える場を設定する等、ある施設を費用を掛けずに変えていくことが具体的な計画になると思う。トップスポーツと触れ合う機会等「場」を問題として提言したい。

委員：活動するだけでなく「交流」する場面を持てば学びの姿勢も入ると思う。高齢者のスポーツ活動の促進に「交流」が入るといいかと思う。

事務局：第1期計画では語るスポーツ分野で仲間同士で語り合える場、アスリートが自分たちの思いを語る場の創出があった。

第2期では、基本目標4の学び合うスポーツと統合している。実施検討している取組例として、他市町村との交流としている。大学の交流や活動後の交流の場をつくるなど幅を広げ、計画に付け加えたいと思う。

委員：具体的にできることを記載できれば文章だけで終わらないと思う。

委員：改めて検討し、意見があれば連絡をさせていただく。

委員：20代の子育てや仕事をしている世代に意識を持ってもらえることをすれば計画の目標に近づけると思われる。

5 その他

事務局：10月9日（月・祝）住友金属鉱山アリーナ青梅にて、青梅市スポーツ振興基金条例に基づく表彰式を執り行う。出席を願いたい。

また、次回は1月頃に開催を予定したい。8月31日現在の表彰候補者の追加の諮問についても早急に連絡をさせていただく。

※ 参考資料

青梅市スポーツ振興審議会条例（参考1）

青梅市スポーツ振興基金条例（参考2）

青梅市スポーツ振興基金条例施行規則（参考3）

青梅市スポーツ振興基金条例にもとづく表彰基準（参考4）

青梅市スポーツ振興審議会の会議の公開に関する取扱要綱（参考5）